

「あすのわたし」は



今日の相談から

誰かに話をすることで、自分の考えがまとまったり、気持ち がスッと楽になったりした経験はありませんか？

県は、10月1日に県内で初めて「子ども・若者総合相談センター」(愛称「あすのわ」)を開設しました。

県内の子ども・若者支援の現状と「あすのわ」や関係機関などの連携による今後の支援について、県庁私学・青少年課の狩野さんにお話を伺いました。



県庁私学・青少年課
かのう ゆうへい
狩野 雄平さん

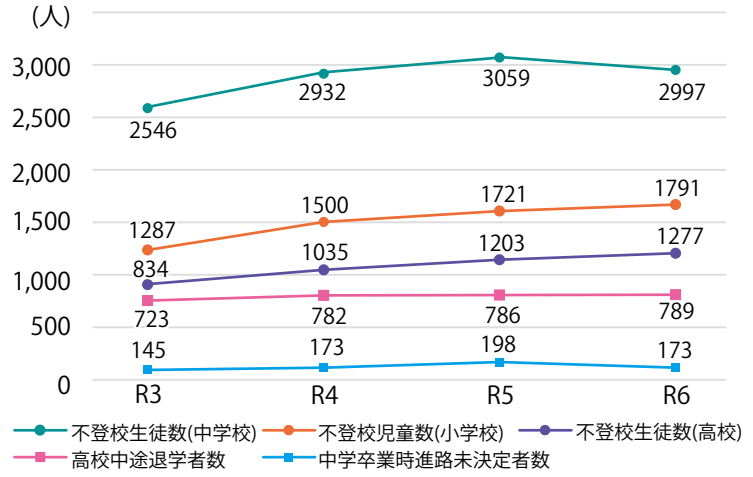
悩みを抱える子ども・若者は増えている

県内の学校に通う子どもたちの内、^{ユニパス}UniPath※の児童・生徒の数は年々増える傾向にあります。文部科学省が実施した調査によると、6年度は、**中学生が2997人と校種別で最も多くなっています。**

一方、**高校生は3年度の834人に対し、6年度は1277人と約1.5倍になりました。高校中途退学者の数も3年度の723人から6年度は789人に増えており、現在の状況や将来に対し不安を抱える若者は少なくありません。特に義務教育修了後の若者に向けた切れ目のない支援の重要性が高まっています。**

※「一人ひとりがそれぞれの思い描く道を歩んでいい」という思いを込め不登校を県独自に言い換えた表現

県内におけるUniPathの児童・生徒数の推移



年度	不登校生徒数(中学校)	不登校児童数(小学校)	不登校生徒数(高校)	高校中途退学者数	中学卒業時進路未決定者数
R3	2546	1287	834	723	145
R4	2932	1500	1035	782	173
R5	3059	1721	1203	786	198
R6	2997	1791	1277	789	173

文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を元に作成

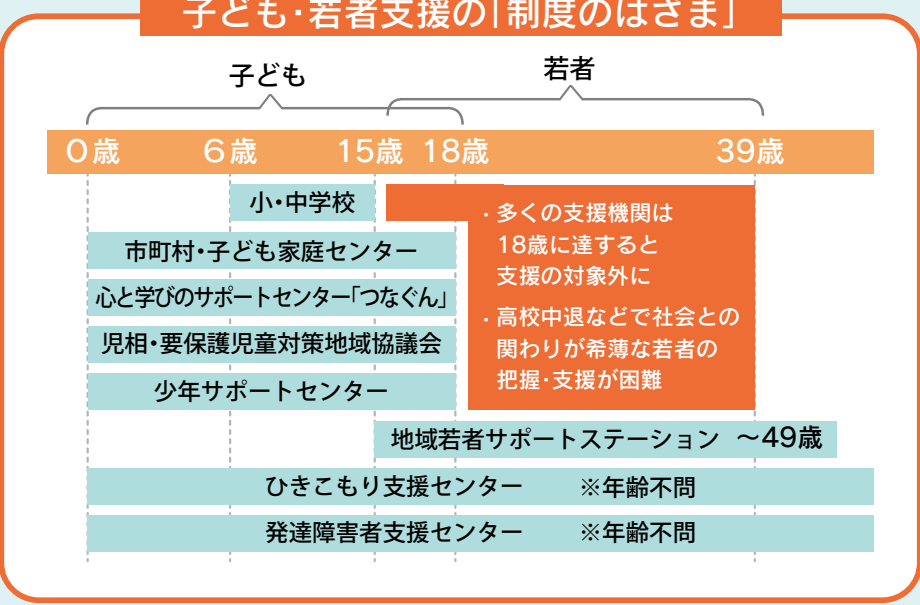
子ども・若者支援の課題

子ども・若者の支援の現状について、こども家庭庁「令和7年度こども家庭審議会 児童虐待防止部会」委員からは「18歳未満の支援は充実してきているが、**若者への支援が不足している**」「**各機関の支援がうまくつながらず、年齢を重ねてしまった若者がいるのでは**」などの意見が挙がっています。

さまざまな事情により困難な状況にある子ども・若者への支援には、以下の課題があります。

- 15歳(義務教育の終了)・18歳(支援対象年齢の区切り)に達した場合や高校中退者など「制度のはざま」に置かれた子ども・若者が適切な支援につながりにくい
- 複合的な要因により困難な状況にある子ども・若者に対し、複数の支援機関が連携して長期的に関わる必要がある

子ども・若者支援の「制度のはざま」



子ども 若者

0歳 6歳 15歳 18歳 39歳

小・中学校

市町村・子ども家庭センター

心と学びのサポートセンター「つなぐん」

児相・要保護児童対策地域協議会

少年サポートセンター

地域若者サポートステーション ～49歳

ひきこもり支援センター ※年齢不問

発達障害者支援センター ※年齢不問

多くの支援機関は18歳に達すると支援の対象外に

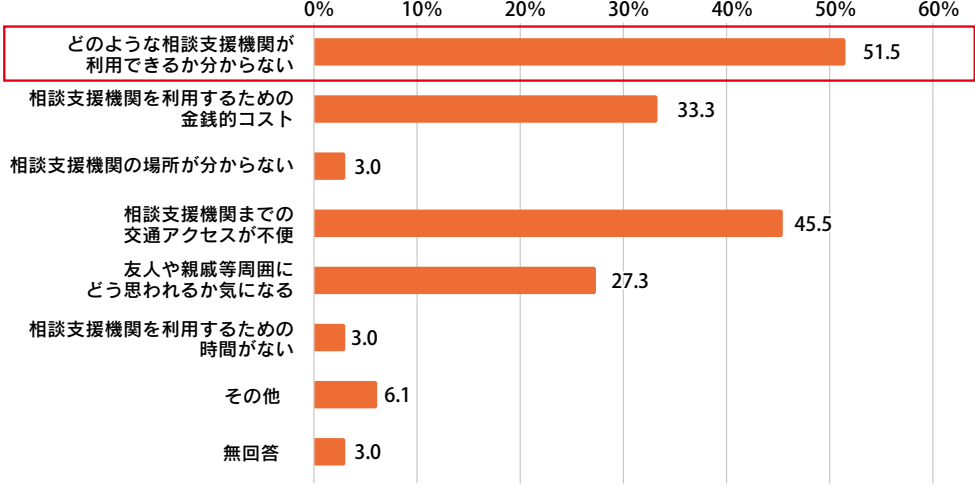
高校中退などで社会との関わりが希薄な若者の把握・支援が困難

相談先が分からない…

県庁生活こども部では、6年6月に「第8回ぐんま青少年基本調査報告書」を取りまとめました。相談支援機関などを利用する子ども・若者を対象に、利用する上での障壁についてアンケートを実施したところ、**約5割の人が「どのような相談支援機関が利用できるか分からない」と回答しました。**

ヤングケアラー、ニート、ひきこもりなど、さまざまな事情により困難な状況にある子ども・若者への支援は、複合的な課題への対応が求められる一方、相談窓口が明確でない状況にありました。

若者の自立支援に関するアンケート



障壁	割合
どのような相談支援機関が利用できるか分からない	51.5
相談支援機関を利用するための金銭的成本	33.3
相談支援機関の場所が分からない	3.0
相談支援機関までの交通アクセスが不便	45.5
友人や親戚等周囲にどう思われるか気になる	27.3
相談支援機関を利用するための時間がない	3.0
その他	6.1
無回答	3.0

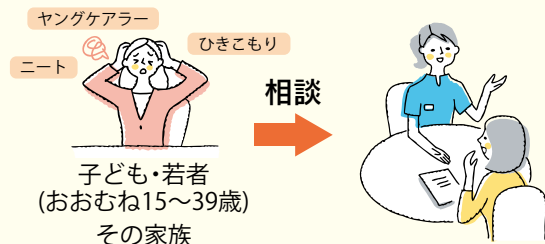
県庁生活こども部「第8回ぐんま青少年基本調査報告書」より抜粋

「あすのわ」って、どんなところ？

これまでの子ども・若者支援の課題を受けて、子ども・若者やその家族からのさまざまな悩みに対応するために設置された総合相談窓口です。おおむね15～39歳の子ども・若者やその家族を対象に、幅広い悩みや困りごとを聴き、必要に応じて専門機関へ支援をつなぎます。

また複合的な要因により困難な状況にある場合は、関係機関と連携しながら、一人一人に寄り添い、切れ目のない総合的な支援をコーディネートします。

「あすのわ」ができること



1. 相談を受け止める

子ども・若者、その家族からの悩みや不安などの相談に対応

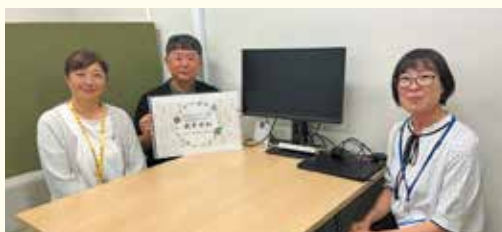
2. 支援につなぐ

教育・福祉・医療・就労支援などの関係機関や民間団体につなぐ

3. 連携して支える

関係機関や民間団体をつなぐ中核として、切れ目のない総合的な支援をコーディネート

相談員からのメッセージ



▲左から相談員の高橋さん、小林さん、平井さん

学校や仕事、家族、人間関係、心や体、将来のこと、一人で悩んでいませんか。話したくないことは無理に話す必要はありません。相談者の「あす」が少しでも良くなるよう、一緒に考えます。どんなことでも気軽に相談ください。 ※面談は予約制(オンライン可)

県社会福祉総合センター 4階
前橋市新前橋町13-12
asunowa@g-shakyo.or.jp
027-212-1200
火～土曜日
午前10時～午後5時
(祝日・年末年始を除く)



▲メールや電話のほか、LINEでも相談できます

つながる支援の輪

「あすのわ」の運営を受託する県社会福祉協議会と、県の委託事業の高校中退者等訪問支援事業を受託するNPO法人の顔合わせが行われました。これまで取り組んできた訪問支援事業について共有し、今後「あすのわ」とNPO法人で連携して支援をつないでいくことが確認されました。

山本さん 子ども・若者の心が育つことや、支援する私たちを信頼してもらうまでには時間がかかります。私たちが諦めないで支援をつないでいくことが重要だと感じています。



NPO法人 カウンセリング&コミュニケーション・ミューズ
代表 山本 泉さん

相馬さん これまでの支援の進め方を参考にしながら、一緒に取り組んでいきたいです。

また直接的な支援だけでなく「ユースセンター※」などの居場所の紹介も行っていきたいです。

※若者が家庭や学校以外で自由に過ごし、学びや交流、社会参加ができる居場所



県社会福祉協議会・「あすのわ」
やまだ まきこ
山田 真喜子さん(左)、
そうま ありさ
相馬 亜里沙さん(右)

働く不安をサポート

高校中退者などの中には、働くことに不安を抱えている若者も少なくありません。就労支援を行う「ぐんま若者サポートステーション」(通称サポステ)の唐沢さんにお話を伺いました。

「サポステ」って、どんなところ？

在学中でなく働いていない15～49歳の人やその家族を対象に、働くことの準備から職場定着までサポートしています。何も決まっていなくても、無業期間が長くても、すぐに働くつもりがなくても大丈夫です。「いつかは働きたい」という気持ちがあれば、気軽に相談ください。



ぐんま若者サポートステーション
総括コーディネーター
からさわふみひと
唐沢 文彦さん

「あすのわ」に期待することは？

不安を抱えている若者の中には、家庭環境や本人の状況などさまざまな悩みを抱えている人が増えています。「あすのわ」には支援機関同士をつなぐ窓口として機能してもらうことを期待しています。私たちも連携して支援していきたいです。

県公社総合ビル 8階
前橋市大渡町 1-10-7
※東毛常設サテライトは
太田市役所南庁舎 2階
027-212-3630
月～金、第2・4土曜日
午前10時～午後6時
(祝日・年末年始を除く)



▲面談予約など詳細はこちら

各支援機関は子ども・若者が自らの人生を自分らしく生きられるよう話を聞き、共に考えます。まずは相談から。子ども・若者の「あす」が始まります。

問い合わせ先 県庁私学・青少年課 ☎027-898-3557